

イノベーションに情熱を。
ひとに思いやりを。



2014年度決算 経営説明会

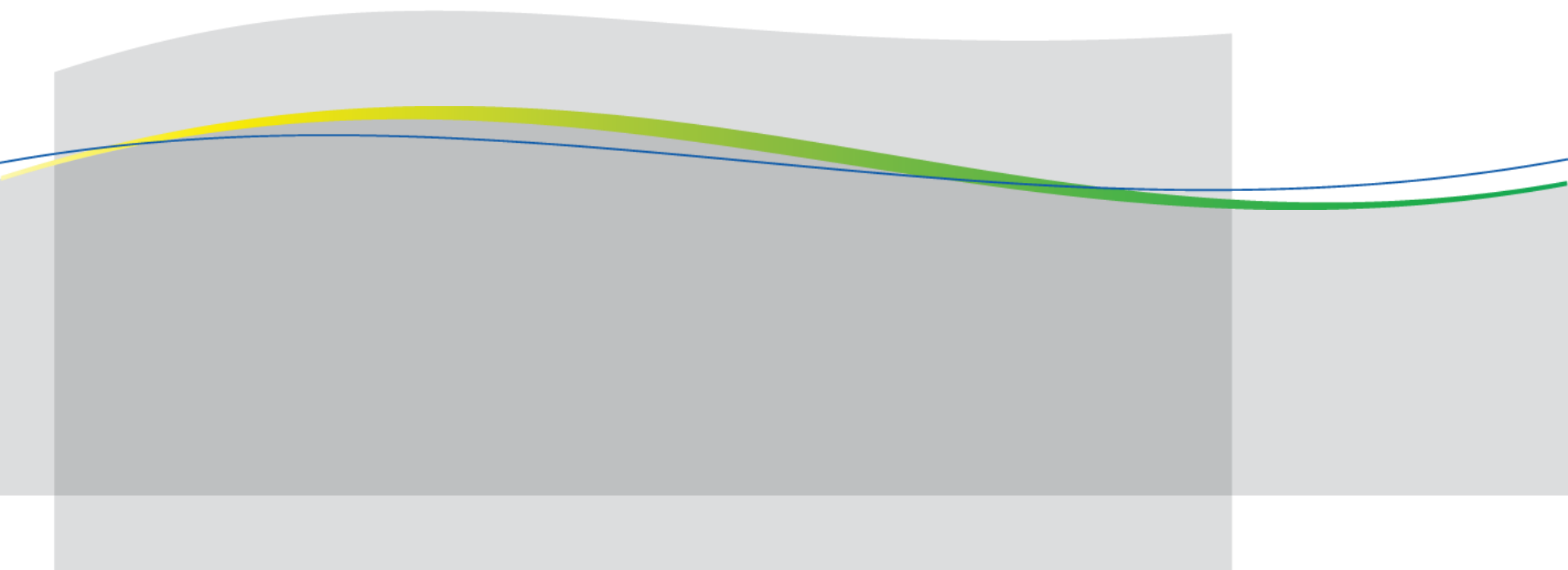
第一三共株式会社

代表取締役社長 兼 CEO
中山 讓治

2015年5月15日(金)

- ◆ **2014年度 決算**
- ◆ **2015年度 業績予想**
- ◆ **中期経営方針について**

2014年度 決算



2014年度 連結業績の概要

(単位：億円)

	2013年度 実績*1	2014年度 実績*1	増減
売上収益	8,991	9,194	+2.3% +202
売上原価	2,829	3,231	+402
研究開発費	1,807	1,907	+100
販売費・一般管理費	3,227	3,312	+85
営業利益	1,129	744	-34.1% -385
税引前利益	1,130	799	-330
継続事業からの 当期利益	658	436	-33.8% -222
非継続事業からの 当期利益	-124	2,754*2	+2,878
当期利益 (親会社帰属)	609	3,221	+428.6% +2,612

為替 レート	円/USD	100.24	109.94	+9.7
	円/EUR	134.38	138.78	+4.4
	円/INR	1.68	1.81	+0.13

*1 ランバクシー連結除外に伴いランバクシーの実績及び合併関連損益を非継続事業へ区分(2013年度実績も同様に組替表示)

*2 2014年度 非継続事業に係る当期利益の詳細についてはスライド7をご覧ください。

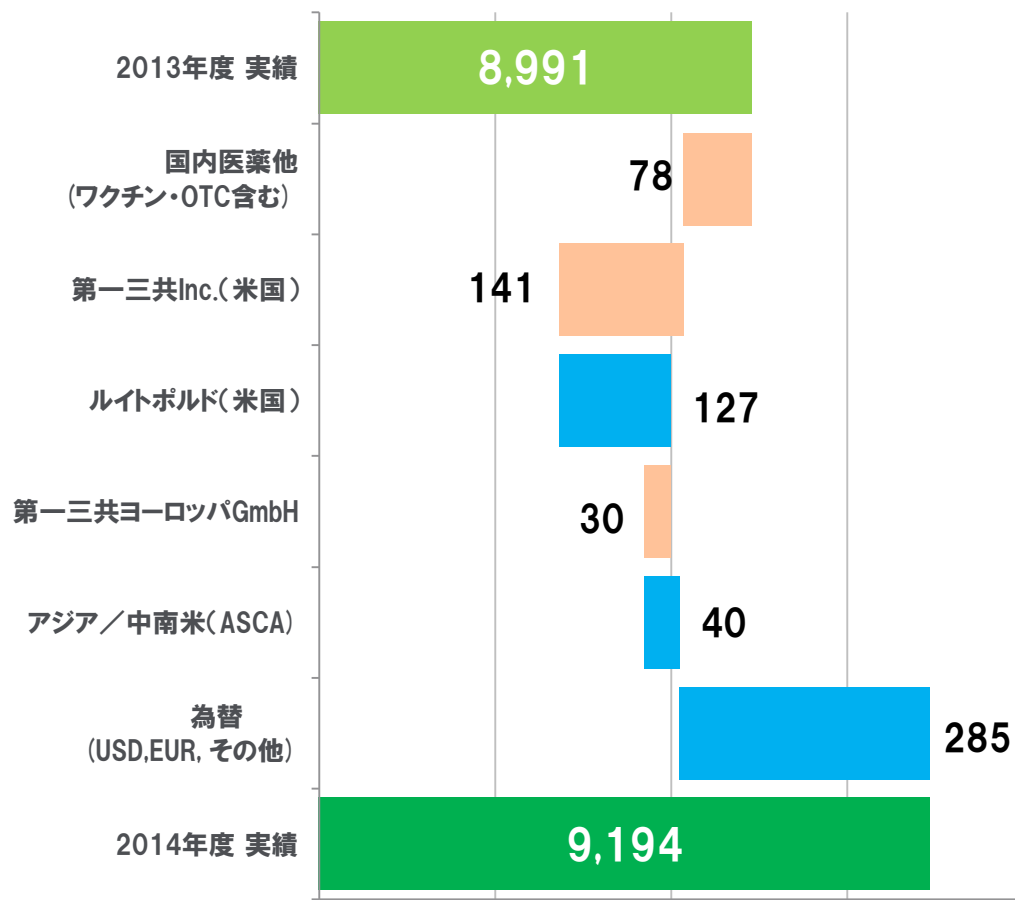
売上収益増減

(単位:億円)

増収要因

減収要因

第一三共Inc.、欧州が減収の一方、
ルイトポルド、アジア/中南米の伸長と為替が寄与



国内製品(薬価改定の影響 -302)

増収: ネキシウム +151 テネリア +60

ブラリア +42 メマリー +35

リクシアナ +32 イナビル +31

減収: ロキソニン -98 クラビット -57

メバロチン -53 ワクチン事業 -53

海外製品(為替差含)

第一三共Inc.: オルメサルタン -57

ウェルコール +51

ルイトポルド: ヴェノファー +37

インジェクタファー +63

第一三共ヨーロッパ: オルメサルタン -4

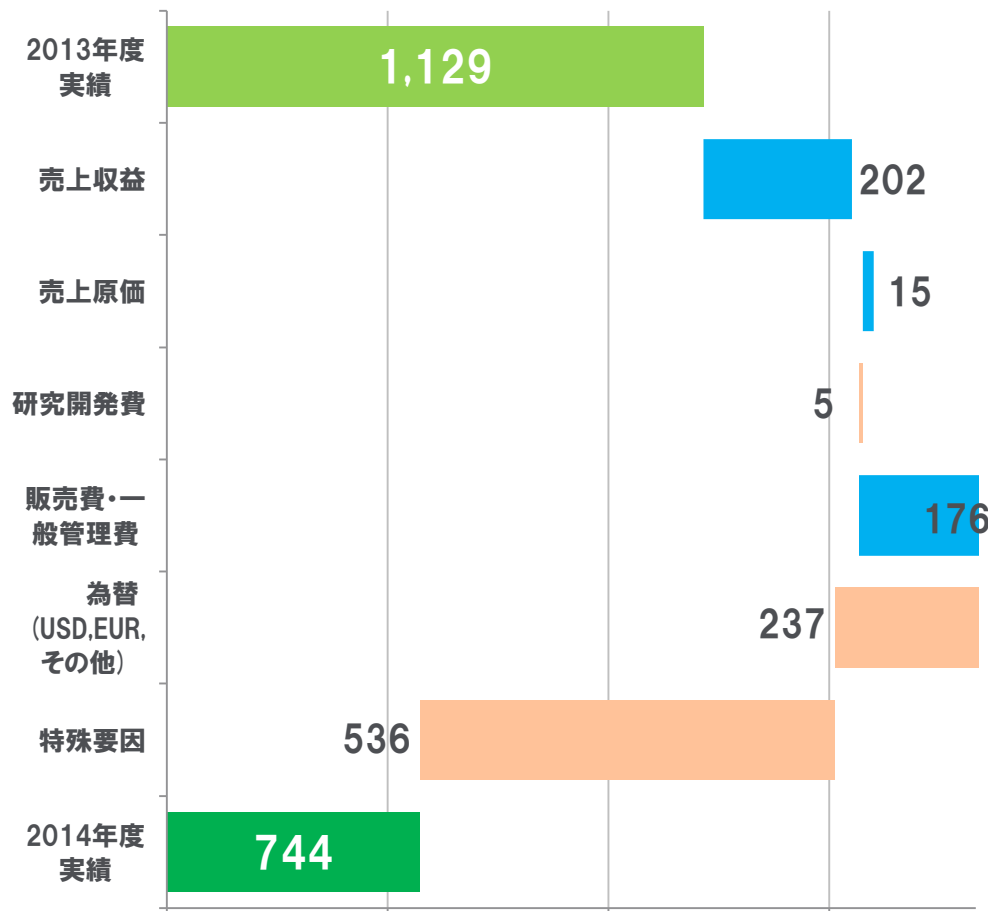
営業利益増減

(単位:億円)

増益要因

減益要因

円安による経費増加を極力抑えるも、特殊要因として、
ゼルボラフ減損、日本事業運営体制の最適化に関わる人事関連費用を計上



売上原価 -15

研究開発費 +5

販売費・一般管理費 -176

オルメサルタンに関わる共同販促費支払い減少など

為替影響 +237

売上原価 +45

研究開発費 +51

販売費・一般管理費 +141

特殊要因 +536

ゼルボラフ減損 +350 → 売上原価

日本人事関連費用 +139 → 売上原価、研究開発費、
販売費・一般管理費

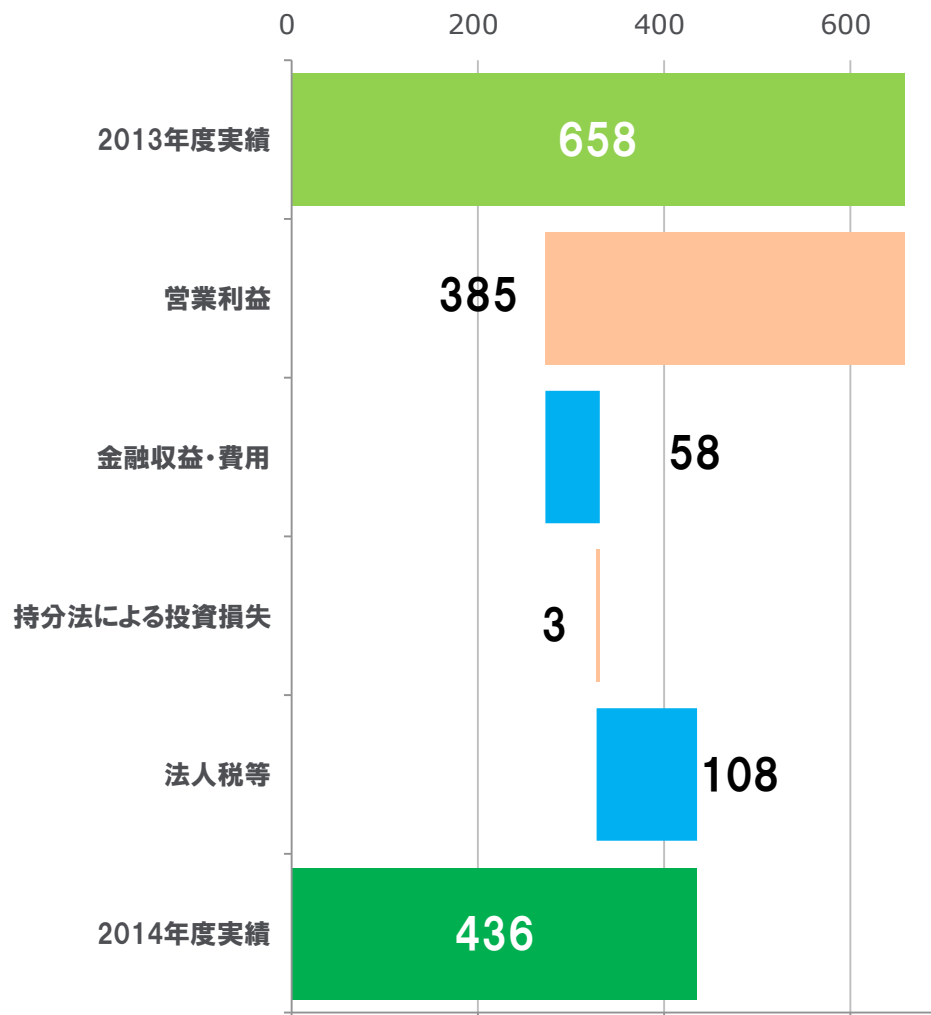
米国DOJ和解引当金 +47 → 販売費・一般管理費

継続事業からの当期利益増減(単位:億円)

増益要因

減益要因

ゼルボラフ減損処理に係る純損失により、当期利益は減少



金融収益・費用 +58 為替差益など

法人税等 -108 税率変更に伴う繰延税金資産取崩し
(※前期はU3ファーマからの資本配当に伴う税金費用減)

*ゼルボラフの減損処理の内訳

減損額	350億円
繰延税金負債の取崩	130億円
純損失	220億円

非継続事業からの当期利益について

- ◆ 2014年度中にランバクシーはサン・ファーマに吸収合併され、連結対象から除外となり、非継続事業へ区分
- ◆ 2014年度の非継続事業からの当期利益は、子会社合併差益、合併関連諸費用、ランバクシーグループの事業利益に連結調整、内部取引を加えたものにより構成

2014年度 非継続事業の明細

	税引前	税引後
子会社合併差益	3,602億円	2,787億円
合併関連諸費用	50億円	34億円
ランバクシーグループの事業利益	18億円	－0.5億円
非継続事業からの当期利益		2,754億円

サン・ファーマ株式の売却について

- ◆ **2015年3月** **サン・ファーマ/ランバクシー合併手続き完了。
第一三共は株式交換によりサン・ファーマ株式を
約215百万株取得**
- ◆ **2015年4月** **インド株式市場にて全株売却(売却価額:3,784億円)**

2015年度の業績に与える影響の見通し

- **2016年3月期の連結決算では、本取引に係る売却損458億円は「その他包括利益」に計上し、連結業績における親会社の所有者に帰属する当期利益への影響はありません。**

事業運営体制の最適化に伴い、日米欧で約1,500名のスリム化を実施



米国の営業体制見直し

- 2014年度末までに営業組織・本社を中心としてスリム化(約500名減)



欧州の営業体制を刷新

- 2013年度末までにSOVモデルからアクセスモデルへの営業体制変革(約500名減)



日本の事業運営体制を最適化

- 2014年11月 組織体制と全社員の配置見直し
- 2014年12月 転進支援制度特別措置を実施(513名減)
- 2015年4月 サプライチェーン機能会社3社を、原薬製造、製剤製造・物流の2社に再編

エドキサバン AF/VTE領域の申請承認状況

地域	国	状況
日本		2013年12月 効能追加申請、2014年9月 効能追加承認 2014年12月 60mg錠発売開始
北米	米国	2014年1月 承認申請、2015年1月 承認、2015年2月 上市
欧州	EU	2014年1月 承認申請、2015年4月 CHMP承認勧告 2015年6月～7月 EC承認予定
	スイス	2014年1月 承認申請、2015年3月 承認取得 2015年5月 上市
ASCA - アジア - 中南米	台湾	2014年7月 承認申請
	韓国	2014年9月 承認申請
	ブラジル	2014年6月 承認申請

2015年度： 中国等のアジア地域で申請予定

研究開発パイプラインの進捗

2014年度第3四半期決算からの主な変更点

一般名 開発コード (作用機作)	対象疾患・適応症	地域	フェーズ'1	フェーズ'2	フェーズ'3	申請	承認
VN-100	皮内投与型 季節性インフルエンザワクチン	日本				●	
PLX3397 (FMS/KIT/ FLT3-ITD阻害剤)	腱鞘巨細胞腫 (Tenosynovial Giant Cell Tumor , TGCT)	米・欧			●		
DS-8312	高トリグリセライド (TG) 血症	-	 ★				
PLX9486 (KIT阻害剤)	固形癌	米	 ★				

●:ステージアップ ★:新規パイプライン

開発中止

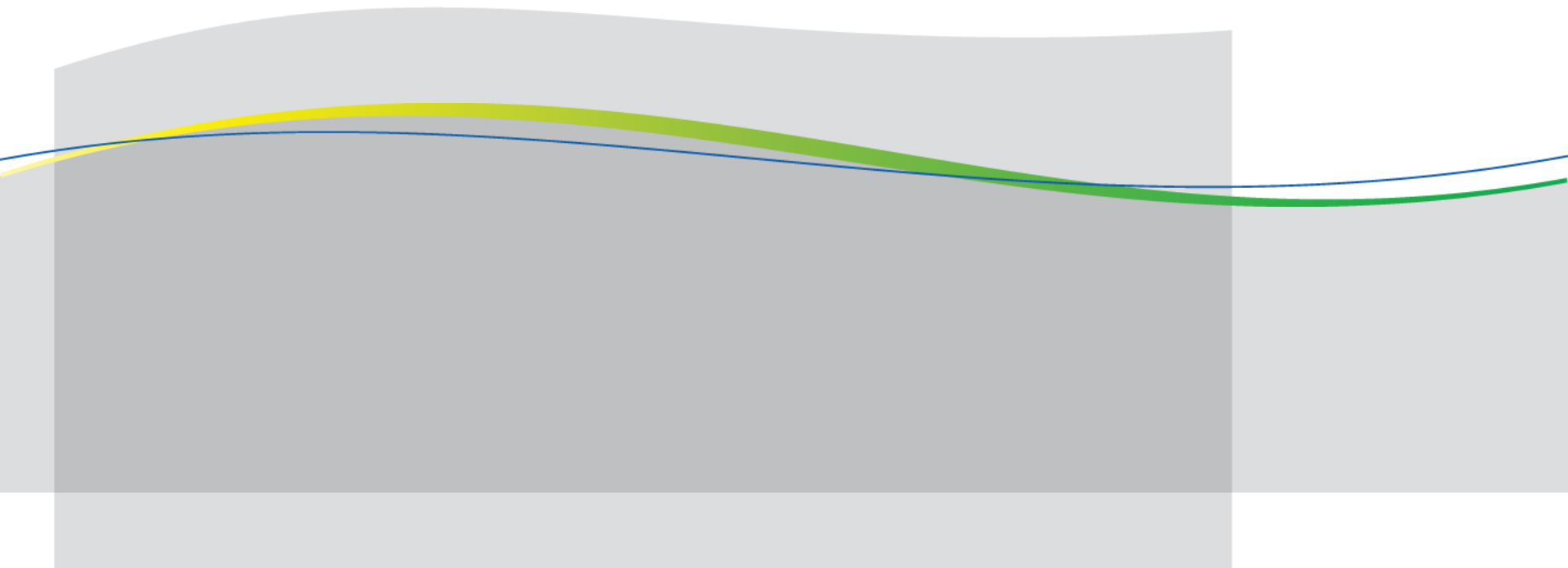
一般名	対象疾患・適応症	地域	特記事項
PLX5622	関節リウマチ	-	所期の目的を達成しなかった為、 フェーズ1で開発中止を決定

主要研究開発パイプライン

(2015年5月現在)

領域	フェーズ 1	フェーズ 2	フェーズ 3	承認申請
循環代謝	■ DS-1040 (急性期虚血性脳血管障害/TAFIa阻害剤) ■ DS-8312 (高TG血症)	■ CS-3150 (日) (高血圧症・糖尿病性腎症/MR拮抗薬) ■ DS-8500 (日) (糖尿病/GPR119作動薬)	■ プラスグレル (日) (CS-747/虚血性脳血管障害/抗血小板剤) ■ プラスグレル (米) (CS-747/鎌状赤血球/抗血小板剤)	■ エドキサバン (欧他) (DU-176b/AF/経口FXa阻害剤) ■ エドキサバン (欧他) (DU-176b/VTE/経口FXa阻害剤)
癌	■ U3-1565 (米日) (抗HB-EGF抗体) ■ DS-7423 (米日) (PI3K/mTOR阻害剤) ■ DS-3078 (米欧) (mTOR阻害剤) ■ DS-3032 (米日) (MDM2阻害剤) ■ PLX7486 (米) (FMS/TRK阻害剤) ■ DS-8895 (日) (抗EPHA2抗体) ■ DS-8273 (米) (抗DR5抗体) ■ PLX8394 (米) (BRAF阻害剤) ■ DS-6051 (米) (NTRK/ROS1阻害剤) ■ DS-5573 (日) (抗B7-H3抗体) ■ PLX9486 (米) (KIT阻害剤)	■ Patritumab (米欧) (U3-1287/抗HER3抗体) ■ Vemurafenib (米欧) (PLX4032/BRAF阻害剤) ■ PLX3397 (米) (FMS/KIT/FLT3-ITD阻害剤)	■ Tivantinib (米欧) (ARQ 197/肝細胞癌/Met阻害剤) ■ デノスマブ (日) (AMG 162/乳癌補助療法/抗RANKL抗体) ■ ニモズマブ (日) (DE-766/胃癌/抗EGFR抗体) ■ Vemurafenib (米欧) (PLX4032/メラノーマ術後補助療法/ BRAF阻害剤) ■ Quizartinib (米欧) (AC220/急性骨髄性白血病/ FLT3-ITD阻害剤) ■ PLX3397 (米欧) (縫紪巨細胞腫/ FMS/KIT/FLT3-ITD阻害剤)	
その他	■ DS-1093 (腎性貧血/HIF-PH阻害剤) ■ DS-3801 (慢性便秘/GPR38アゴニスト) ■ DS-1971 (慢性疼痛) ■ DS-1501 (骨粗鬆症/抗Siglec-15抗体)	■ SUN13837 (米欧) (脊髄損傷/bFGF様細胞分化誘導体) ■ ラニナミビル (米欧) (CS-8958/抗インフルエンザ /ヒオタと導出活動中) ■ Ioforninol (日) (GE-145/X線造影剤/血管撮影)	■ Mirogabalin (米欧) (DS-5565/線維筋痛症/α2δリガンド) ■ Mirogabalin (日亜) (DS-5565/DPNP/α2δリガンド) ■ Mirogabalin (日亜) (DS-5565/PHN/α2δリガンド) ■ デノスマブ (日) (AMG 162/関節リウマチ/抗RANKL抗体) ■ ヒドロモルフォン (日) (DS-7113/癌性疼痛/μオピオイド受容体作動薬) ■ CHS-0214 (日) (エタネルセプトバイオ後続/関節リウマチ /TNFα阻害剤) ■ CL-108 (米) (急性疼痛/μオピオイド受容体作動薬)	■ レボフロキサシン (日) (DR-3355/感染症/ニューキノロン系抗菌剤)

2015年度 業績予想



2015年度 主要経営目標

- ◆ グループ総力をあげてエドキサバンの各極での市場導入を成功させ、オルメサルタンに続く主軸製品として育成する。
- ◆ オルメサルタン収益の最大限確保と成長品目の急速拡大、ならびにローコストオペレーションの徹底的追求により、売上収益9,200億円、営業利益1,000億円超を確保する。
- ◆ 新たなスタートラインに立ち、持続的な企業価値向上を実現する事業基盤を再構築する。

2015年度 連結業績予想

単位:億円

	2014年度 実績	2015年度 予想	増減
売上収益	9,194	9,200	+0.1% +6
売上原価	3,231	3,000	-231
研究開発費	1,907	1,900	-7
販売費・一般管理費	3,312	3,300	-12
営業利益	744	1,000	+34.4% +256
税引前利益	799	950	+151
当期利益 (親会社帰属)	3,221	600	-2,621
(うち継続事業分)	465	600	+29.1% +135

為替 レート	円/USD	109.94	120.00	+10.06
	円/EUR	138.78	130.00	-8.78

株主還元策について

◆ 記念配当の実施

- ・ 創立10周年を記念し、第2四半期末に1株当たり30円の普通配当に加え、10円の記念配当を実施する予定
- ・ 年間配当金としては1株当たり70円となる予定

	第2四半期末	期末	年間
2015年度(予想)	40円 (普通配当30円) (記念配当10円)	30円	70円
2014年度(実績)	30円	30円	60円

◆ 自己株式取得の実施

- ・ 500億円 上限
- ・ 2,800万株 上限
- ・ 2015年5月15日～2015年8月31日を取得期間



国内主要製品 2015年度売上予想

(単位:億円)

		2014年度 実績	2015年度 予想	増減
オルメテック	高血圧症治療剤	763	800	+37
ネキシウム	抗潰瘍剤 (プロトンポンプ阻害剤)	693	740	+47
メマリー	アルツハイマー型 認知症治療剤	368	470	+102
ロキソニン	消炎鎮痛剤	495	440	-55
クラビット	合成抗菌剤	278	210	-68
レザルタス	高血圧症治療剤	184	190	+6
アーチスト	高血圧症治療剤	181	170	-11
オムニパーク	造影剤	172	160	-12
メバロチン	高コレステロール血症 治療剤	162	140	-22
ランマーク	癌骨転移治療剤	102	130	+28
ユリーフ	排尿障害治療剤	115	110	-5
プラリア	骨粗鬆症治療剤	73	100	+27
リクシアナ	経口FXa阻害剤	36	50	+14
エフィエント	抗血小板剤	7	50	+43



米国における取組み

オルメサルタンのパテントクリフ克服へ向けた戦略的取組み

◆ 制吐剤配合麻薬性鎮痛剤 CL-108

- 2014年8月 Charleston Laboratories社より米国での開発・販売権を取得
オピオイド誘発性の悪心・嘔吐の低減を目指し第3相試験中、2016年度上市を目指す

◆ オピオイド誘発性便秘(OIC)治療薬 モバンティック

- ファースト・イン・クラスの1日1回経口投与末梢作用型 μ オピオイド受容体拮抗剤
(消化管におけるオピオイドの受容体への結合を阻害)
- 2015年4月 AstraZeneca社との共同販促開始

◆ 急性骨髄性白血病治療薬 キザルチニブ

- 2014年10月 キナーゼ阻害剤の創薬・開発に携わるバイオベンチャー企業、Ambit Biosciences社を買収により、第3相試験段階にある急性骨髄性白血病治療薬キザルチニブの開発権利を取得

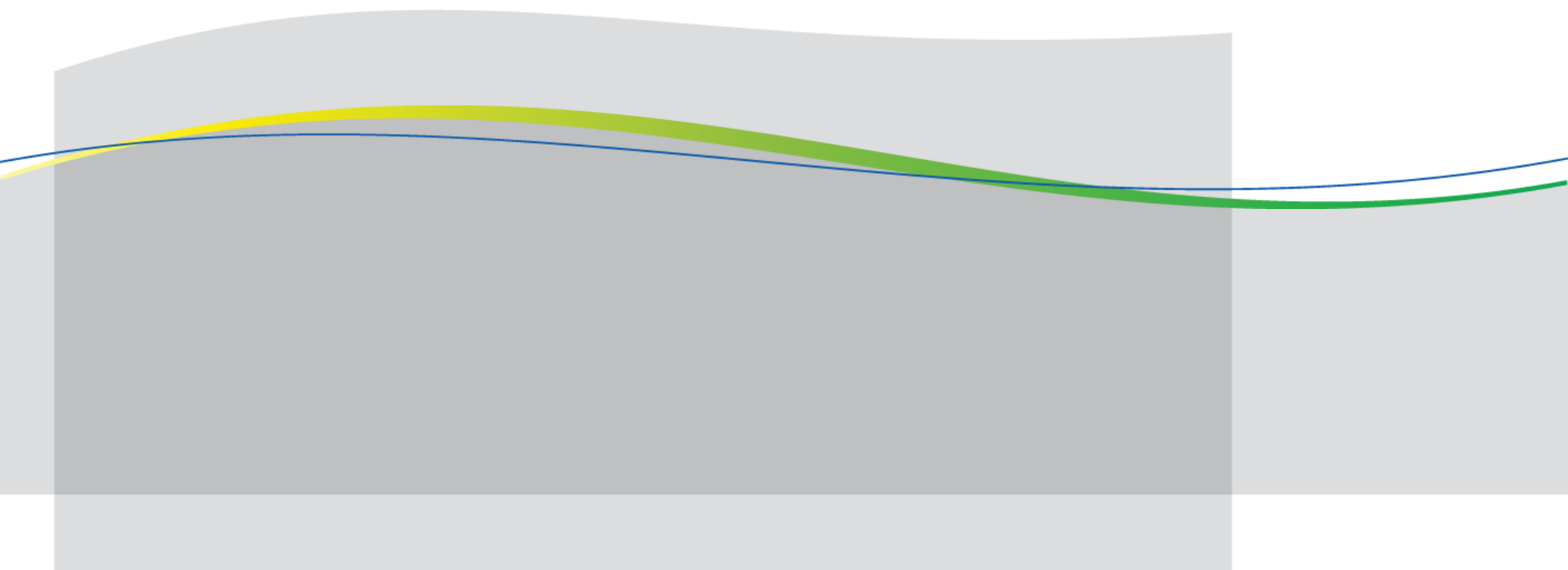
◆ PLX3397

- 2015年5月 臃鞘巨細胞腫における第3相試験開始
- 2015年5月 メルク社の抗PD-1抗体pembrolizumabとの併用試験計画を公表

承認取得・上市を目指す製品群

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度以降
日本	レボフロキサシン静注 追加適応 スクエアキッズ 4種混合ワクチン	ラコサミド てんかん VN-100 皮内投与型 季節性インフルエンザワクチン	デノスマブ 乳癌アジュバント デノスマブ 関節リウマチ エタネルセプトBS 関節リウマチ プラスグレル 脳血管障害 ヒドロモルフォン 癌性疼痛	ミロガバリン DPNP&PHN	癌 ニモツズマブ バトリツマブ PLX3397 ベムラフェニブ (LCM)
米国	モバンティック OIC	CL-108 急性疼痛	プラスグレル 鎌状赤血球	チバンチニブ HCC キザルチニブ AML	循環代謝 CS-3150 DS-8500 プラスグレル (LCM) エドキサバン (LCM)
西欧	エドキサバン AF エドキサバン VTE			チバンチニブ HCC キザルチニブ AML	その他 ミロガバリン SUN13837 GE-145 デノスマブ(LCM)
その他	エドキサバン AF&VTE (中国・南米など)				

中期経営方針について



- ◆ グローバルハイブリッドビジネスの見直し
- ◆ 新たな経営の方向性
- ◆ 中期的課題への対応
 - オルメサルタン パテントクリフ克服への取組み
 - サン・ファーマ株式売却資金の活用方針
 - 新たな中期経営計画の策定について

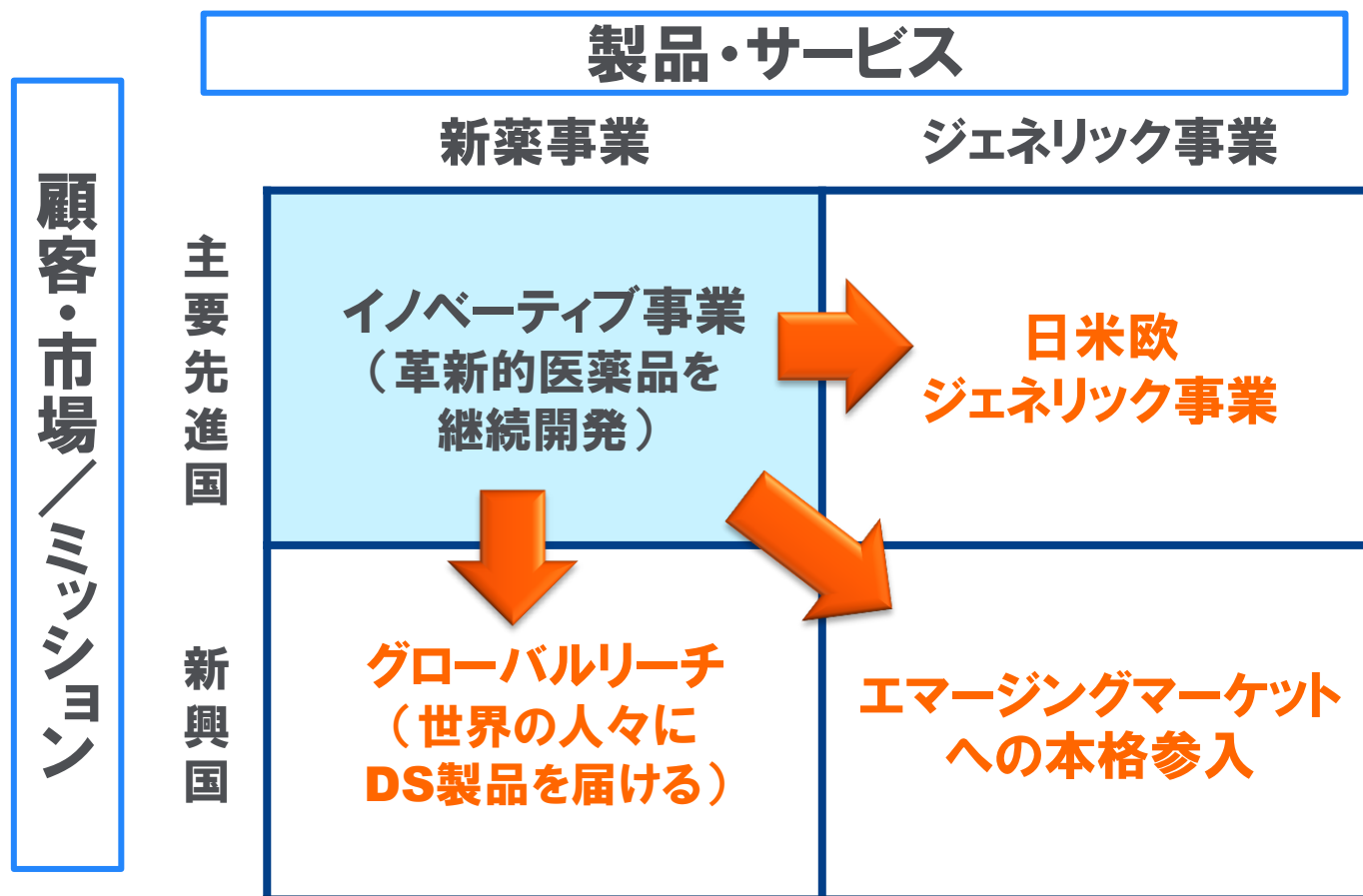
目指す会社像

- 世界の健康・医療に有効な**Solution**を
持続的に提供できる会社

第3期中期経営計画の経営目標

- オルメサルタンのパテントクリフの克服
- 持続的成長の実現と収益性の改善
- 第一三共/ランバクシーを軸とする
グループビジネスの深化と効果創出

グローバルハイブリッドビジネスの期待成果



経営方針の転換

第3期中期経営計画では、ランバクシーを成長ドライバーの1つとして位置づけた

品質問題・米国禁輸措置により、期待した成果を中計期間中に得ることは困難と判断
ランバクシーをグループから分離

経営方針の転換を決定

- ・ 規模拡大による成長から、第一三共グループの強みを最大限に生かす筋肉質の成長へ

- ✓ **新薬事業への集中・回帰**
- ✓ **日本・米国・中国への優先投資**
- ✓ **研究開発力強化**

新薬創出のDNA

- ・ 自社品を生み出す力 プラバスタチン、レボフロキサシン、オルメサルタン、エドキサバン、ミロガバリン

メガファーマと互角に渡り合える営業力

- ・ 日本・米国・欧州でのオルメサルタンの成功



自社の強みである新薬事業をさらに強化することで成長する

日本・米国・中国への優先投資

日本 (DS、DSEP、DSHC、KDSV、JVC)

- 強いブランド力・プレゼンス
- 広範な事業分野に対応可能な事業基盤
- 成長期にある充実した製品ポートフォリオ
- 医療現場からの厚い信頼



No.1 製薬企業

米国 (DSI、LPI)

- 世界最大の市場規模
- グローバルスタンダードセラピーの発信地
- 確立された事業基盤



**中核領域の確立
による成長**

中国 (DSCN)

- 世界第2位の市場規模と新薬市場の高い成長性
- 確立された事業基盤、地理的アドバンテージ



**事業基盤拡大
\$1Bビジネス**

研究開発力強化の方向性

パイプラインの充実と現有パイプラインからの成果創出

- ◆ **癌領域： 開発力強化と成果の早期獲得**
- ◆ **循環代謝領域： FICプロジェクトの充実**
- ◆ **先端領域： ユニークなシーズ発掘の促進**
- ◆ **次世代バイオ医薬品への取り組み強化**

中期的課題への対応

パテントクリフ克服への取組み

- ◆ **グローバル： エドキサバンの上市及び大型化**
- ◆ **日本： 新製品の極大化によるシェアNo.1の実現**
 - エフィエント、リクシアナ、メモリー、ネキシウム、デノスマブ他
 - ラコサミド
- ◆ **米国： 新製品の早期育成と中核領域の確立**
 - モバンティック、CL-108
 - インジェクタファー
- ◆ **低コスト体質への継続的な取組み：選択と集中**

◆ 成長分野への投資

- エドキサバン大型化への投資
- 中長期的な研究開発力強化
 - 癌領域の強化
 - 自社研究開発加速化
 - 新規パイプラインの獲得

◆ 株主への還元

- 自社株買い 等

新たな中期経営計画の策定について

本日お話した、新たな経営の方向性を指針に策定

- ◆ 対象期間： 2016年度 – 2020年度
- ◆ 主な内容： 2018年度からの本格的成長、利益創出力の向上、研究開発強化策、株主価値向上(ROE施策)、など
- ◆ 公表時期： 2016年3月



2017年度 売上収益・1兆円 営業利益・1000億円 を確保



急速に変化する世界市場で勝ち残る企業

**世界の多様な医療ニーズに応え、
持続的成長力を備えた
Global Pharma Innovator**

本資料に関するお問い合わせ先

**第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部**

TEL: 03-6225-1126（報道関係者の皆様）

03-6225-1125（株式市場関係者の皆様）

当社が開示する業績予想、将来予測に関する情報、また研究開発に関する情報等につきましては、将来を見込んだ見解として、開示時点で入手可能な情報に基いた当社の想定を示しております。従いまして、開示した情報は、一定のリスクや不確実性を含んでいること、実際の業績は、当社の見解と異なる可能性があることを、ご留意願います。